

# 第2部 北九州市の平成22年度予算

## 1. 平成22年度予算のポイント

平成22年度予算は、財政再建に道筋を付けつつ、現下の喫緊の課題への対処や、本市の成長を戦略的に推進するための事業に取り組むこととしています。その中で、平成22年度予算の重点的に取り組むポイントを三つの柱に整理しました。

また、第一の柱「市民の生活を守る」の主な取組みとして緊急経済・雇用対策の具体的な内容を掲載しております。

### 3つの柱

#### ① 市民の生活を守る

厳しい状況にある経済・雇用情勢や市民生活の安全・安心の確保のため、引き続き**経済・雇用対策**を実施するとともに、**水害・震災対策、暴力追放やモラル・マナーアップ**など**市民生活の安全・安心対策**に取り組めます。

#### ② 未来をひらく

甚大な公害を克服した経験や市内企業に蓄積されている環境技術、更には経済成長著しいアジア諸国に地理的に近いという本市の優位性を最大限に活かすため、「**環境**」と「**アジア**」をキーワードに、戦略的に各種事業に取り組み、本市の成長につなげていきます。

また、**まちのにぎわいを創出**するとともに、本市の将来を担う子どもたちのため**子育て支援、教育環境の充実**を図ります。

#### ③ 持続可能な財政を確立する

都市の発展には安定した財政の確立が不可欠であります。

平成22年度は、「北九州市経営プラン」における集中取組期間の最終年度であることを踏まえ、平成21年度に引き続き**100億円規模の収支改善**に取り組めます。

これによって、**単年度収支の均衡に目途**が立ったことから、経営プランの目指す「**持続可能で安定した財政の確立**」に道筋をつけることができたといえます。

平成22年度予算を「市民の生活を守り、未来をひらく成長戦略予算」と名付け、現下の厳しい経済財政状況を、むしろこれからの本市発展のチャンスととらえ、全力で取り組んでいく決意です。



## ● 緊急経済・雇用対策

北九州地区の経済は緩やかに持ち直しつつあるものの、設備投資の減少や個人消費の低迷、厳しい雇用情勢が続いており、依然として先行き不透明な状況にあります。こうしたことから、引き続き地域経済を支え市民の生活を守るため、緊急経済・雇用対策を実施します。

区分	対策の柱	主な施策	予算額
経済対策	中小企業への支援	中小企業融資(緊急経営安定資金の拡充ほか) 建設業総合対策事業 など	655億円
	公共事業等の実施	投資的経費の確保(対前年度比0.5%増) 維持補修 投資的経費等の前倒し・追加実施…*	763億円
	消費拡大・ にぎわいの創出	コンベンション開催助成金拡充事業 東アジア経済連携・技術交流促進事業 など	3億円
雇用対策	雇用創出	高卒等未就職者支援事業…*(新規雇用者数50人) 緊急雇用創出事業 など ※ 雇用創出人数359人(うち新規雇用の失業者341人)	6億円
	就業支援	若者ワークプラザ北九州運営事業 など	6億円
	人材育成	求職者を対象とした就職活動を強化するための スキルアップ研修事業 など	1億円
合 計			1,433億円

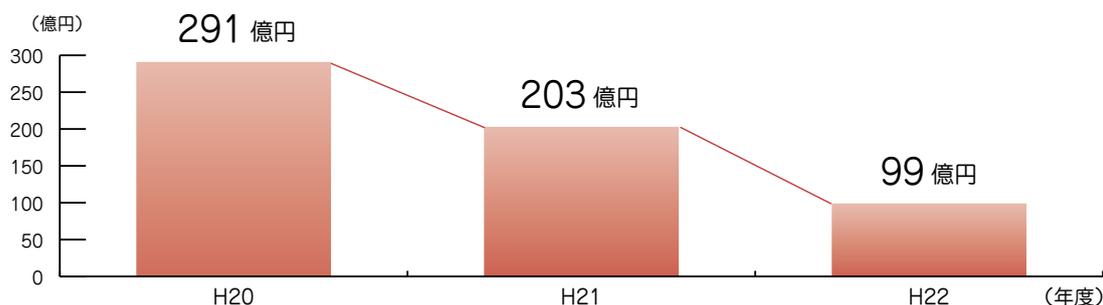
※表示単位未満を四捨五入しているため、合計とは一致しない。

※ \* は、平成21年度2月補正予算。

## ● 財政健全化の推進

「北九州市経営プラン」における集中取組期間の最終年度となる平成22年度予算では、107億円の収支改善に取り組み、市の基金の取崩額を、平成21年度当初予算と比べ104億円 少ない 99億円に抑制します。

### 【財源調整用基金の取崩額推移（当初予算ベース）】

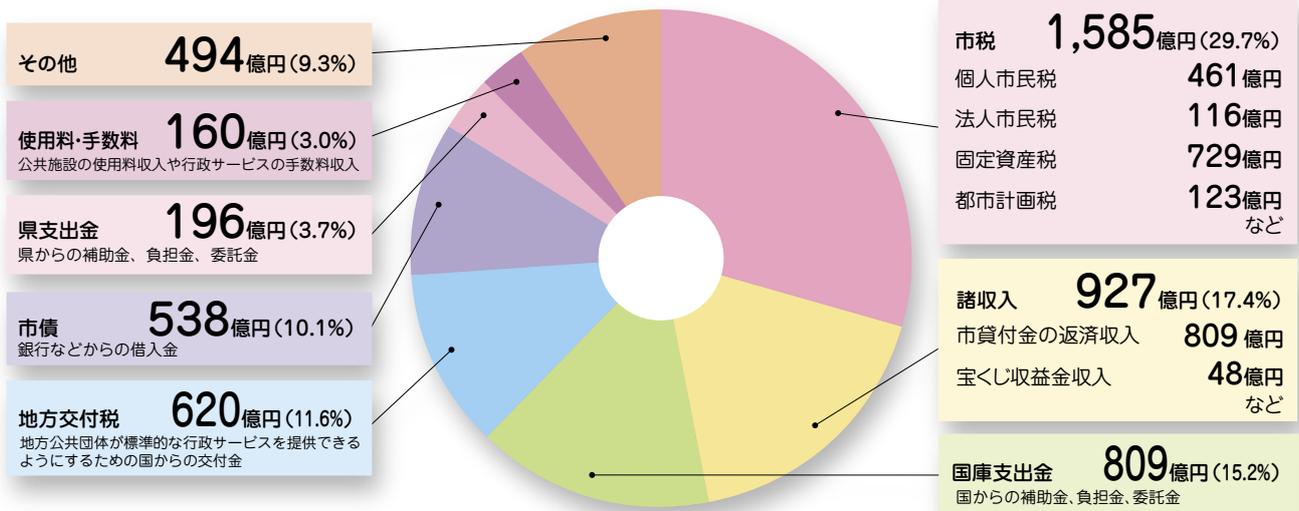


## 2. 平成22年度予算の内訳

平成22年度当初予算の内訳は、次のようになっています。

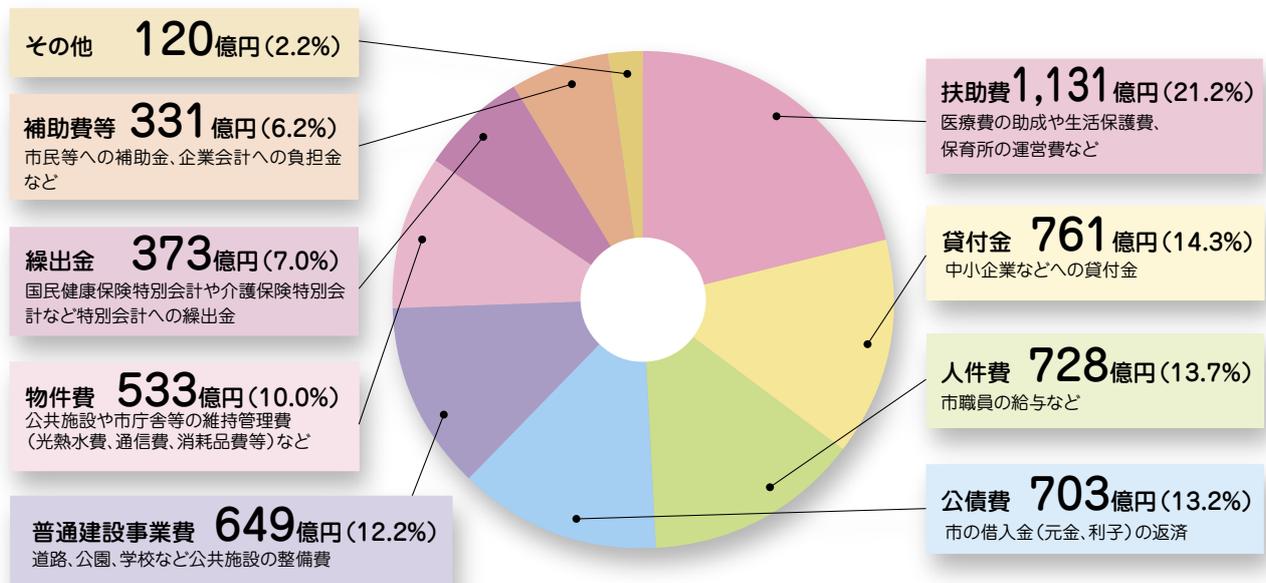
### (1) 歳入予算の内訳(一般会計)

歳入総額 5,329億円



### (2) 歳出予算の内訳(一般会計)

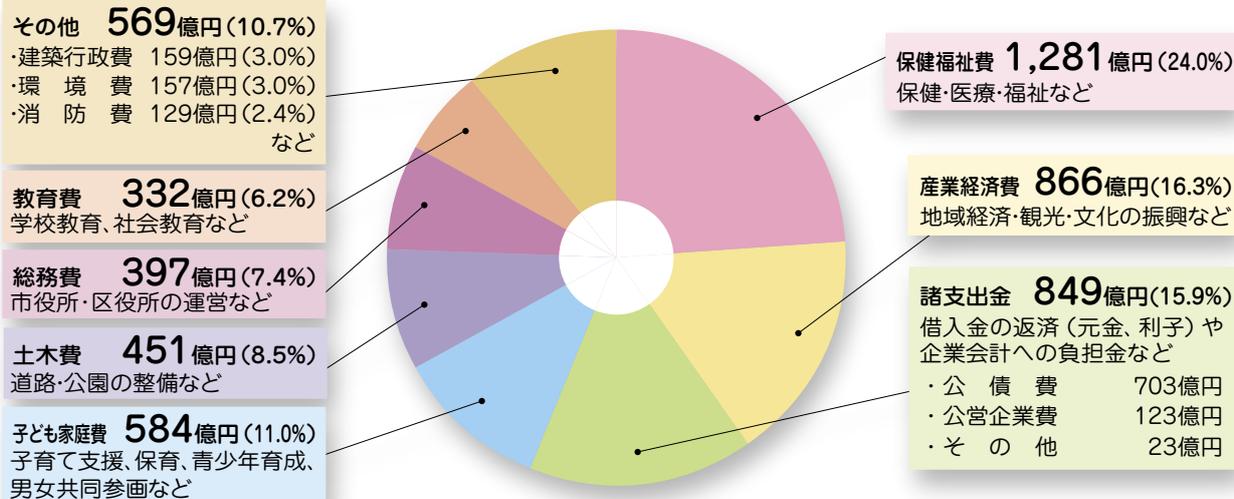
歳出総額 5,329億円



## (参考)歳出の目的別内訳と全会計の予算額

### 【目的別の歳出予算】

一般会計の歳出予算を、教育費、土木費などの「行政目的」に従って分類すると次のようになります。



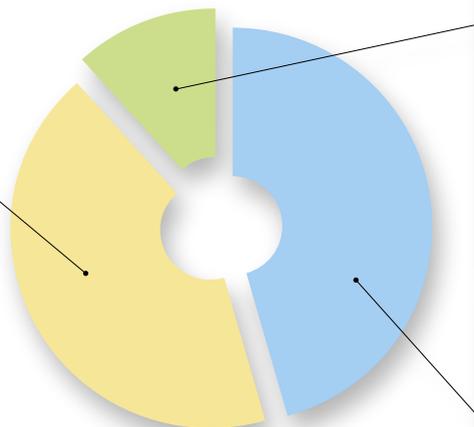
### 【全会計の予算額】

市の会計には一般会計のほか、普通特別会計と企業会計があり、平成22年度予算は総額で1兆1,373億円となっています。

#### ●普通特別会計 4,882億円

国民健康保険や介護保険など、主に特定の収入によって事業費をまかなう会計のうち、企業会計以外の会計です(24会計)。

国民健康保険	1,133億円
競輪、競艇	902億円
港湾整備	95億円
公債償還	1,771億円
介護保険	725億円
後期高齢者医療	137億円
など	



#### ●企業会計 1,162億円

水道事業や交通事業など、民間企業と同じように、主に売上収入で事業費をまかなう公営企業の会計です(5会計)。

上水道事業	303億円
工業用水道事業	31億円
交通事業	23億円
病院事業	272億円
下水道事業	533億円

#### ●一般会計 5,329億円

福祉、教育、道路・公園の整備、ごみ収集など、主に税金を使って事業を行う市の基本的な会計です。

## (参考)北九州市の家計簿

北九州市の予算を、年間の収支500万円の家計に置き換えると、次のようになります。

収入		予算額	支出		予算額
給与		204万円	食費 (人件費)		68万円
基本給 (市税、使用料・手数料、財産収入など)		185万円	家族の医療費など (扶助費)		106万円
諸手当 (地方譲与税、県税交付金)		19万円	銀行への借入金の返済 (公債費)		66万円
銀行からの借入れ (市債)		50万円	自宅の改築、車・電化製品の買替えなど (投資的経費)		61万円
親からの助成・仕送り (国県支出金など)		96万円	光熱水費、通信費、修繕費など (物件費・維持補修費)		58万円
	(地方交付税)	58万円	子どもへの助成・仕送り (繰出金・補助費など)		68万円
預金の取り崩し (繰入金)		16万円	預金 (積立金)		2万円
友人などに貸していたお金の返済金 (貸付金元利収入)		76万円	友人などに貸すお金 (貸付金)		71万円
合計		500万円	合計		500万円

### 収入

昨年に比べて給与が減りましたが、親からの仕送りが増えました。また、支出を見直すなどできるだけ預金の取崩しを抑えました。

### 支出

医療費など(子ども手当等)が増えたものの、ローンを着実に返済するほか、食費や電化製品の買替えを抑えるなど、やりくりしています。平成22年度末のローン残高は、約870万円です。